|  |  |
| --- | --- |
| 発明 | マンシス民主国 |
| 発明年 | 1810年 |
| 毒素名 | イリウシウム |
| 大きさ(体積) | 約0.855L |
| 毒素量 | 約829g(約0.830L) |
| 致死量 | 約300ng |
| 持続年数 | 約5年 |

イリウシウムは褐色の個体だが、水に溶けると無色になる。水とほぼ密度が同じため満遍なく混ざる。水毒兵器は水に溶けやすい有毒物質を川に流すことで、川の水を飲んだ人々を死に追い込む。しかも植物には影響がない上、植物の体内に取り込まれ易く抜けにくい。その上その汚染された植物を摂取するのも危険。動物は大体毒は効くため、畜産業を阻害し、農業も出来なくし、水も飲めない最悪な状況になる。水毒兵器を外せばいいのだが、水毒兵器は山奥に隠すため、発見し辛い。致死量は地球換算では2番目に強い毒素。1810年にアクアート諸国がこの兵器で壊滅的被害に遭う。